

令和6年度 第2回一ノ宮小学校 学校運営協議会 実施報告

1 日 時 令和6年7月2日（火）19:00～20:00

2 場 所 第二職員室（会議室）

3 委員長あいさつ

・草刈りをしていたら5,6年生の子が「おはよう！」と元気な声で挨拶をしてくれた。ふれあいがあったとても良い瞬間であった。今日の運営協議会も会話のキャッチボールをしてふれあいの場となっていきたい。

4 学校関係者評価について（別紙）

○昨年度の長欠の原因や傾向はどのようなものか。また、10日以上は連続か。

→10日は1年間の累積日数。30日以上は全国的な調査対象日数であるが、10日は鈴鹿市独自の取り組みで30日以上は長欠にならないよう教員が意識するために行っている。

○評価基準があいまいだと評価しにくい。PDCAサイクルのように改善につなげていくためにも、評価をしやすい表記にはどうか。小学生だから難しい点もあるが、少しでも意識することで改善につながる。

→その通りであり、点数に表すことのできないこともあるが意識していく。

○ほっとルームではどのように過ごしているのか。

→教室には行けませんが、ほっとルームなら登校できる子、1時間だけほっとルームで過ごしたあと教室へ戻る子などがいる。

○ほっとルームでは個々の習熟に合わせてしているのか。

→担任と連携してプリントや課題をしているが、ほっとルームは学習をすることが主な目的ではない。

○多文化共生教育ではどんなことをしているのか。

→外国にルーツを持つ人を招いて話をきいたり、悩みを聞いたりもする。

5 学校の教育活動の様子について

運動会はコロナ前より練習時間は少なく、体育の時間を中心としたが、十分に成果が出ていた。しっかりと取り組めた。今は1～3年生は水泳を行っている。落ち着いて学習に取り組んでいる。ホンダヒートなどゲストティーチャーを招いて取り組んでいる。

6 子どもについての情報交換（3グループに分かれて協議のあと全体交流）
テーマ「学校と地域とともに子どもを育てていくために」

A：体育館に開放利用の方が手書きで「トイレのスリッパを並べてくれるとうれしいな」と張り紙をしてからよくそろっている。あいさつも含め普段からのふれあいが子どもの育成につながっている。

B：むじゃきにあいさつをしてくる子どもの姿がみられる。集団登校では団によってあいさつの様子は違うが、6年生が1年生を内側にしているなど良い姿がみられるのがうれしい。

C：少子化に伴い、地域のつながりが希薄になりがちであるが、あいさつはしっかりできている。算数のボランティアに入って、1対1だとできるが一人になるとできない姿がある。引き算などの基礎を定着させるとよいと感じた。

7 行事予定、その他

○ 運動会の練習の時子どもたちは「疲れた」「筋肉痛」などと言い、体力が落ちていると感じた。マラソン大会はなくなったが、全員で体力を向上できる取り組みをしてほしい。

→ なわとびなどに取り組んでいく予定である。

8 教育支援課 アドバイザーより

今回初めて取り組んだ小グループでの話し合いでは、意見が言いやすい、ふれ合い感がある、話しやすいなど小グループのよさが出ていた。テーマが少し大きかったので、次回「続きを話そう」と思えるように設定するとよい。自分たちの話し合いが、子どもの成長につながるので大切にしていってほしい。

学校評価については、学校は専門用語を避けて分かりやすい言葉を使い、委員の方には評価したことにより学校が改善されてよくなっていると感じてもらえるとよい。9月の授業参観で、学校評価に書かれていることが実践されているか見てもらい、評価していただきたい。

神戸中学校と同日に引き渡し訓練が行われたことから、安全安心についても話し合いがなされるとよい。